

# 図画工作科学学習指導案

指導者 横浜市立荏田小学校 柳谷 記奈

1. 日時・場所 令和5年 12月 6日(水) 第5校時 場所 図工室
2. 学年・組 第4学年2組 28名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

- 感じたことや想像したこと、見たことから表したいことを見付け、工夫して表す。
  - 活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる
- 【A表現(1)イ(2)イ】【B鑑賞(1)ア】〔共通事項〕

## 子どもたちの姿

- ・感じたことや想像したことを表現する活動には意欲的で、毎回の図工の時間を楽しみにして図工室にくる子が多い。
- ・表したいイメージはあるものの、表現するにあたって自分のイメージ通りの形や色にすることができず、表現活動に見切りをつけてしまう姿が見られる。技能面での手立てや悩んでいることを聞き取ったりして対話を重ねることが安心感につながり、自分の表したいことに近づけようと粘り強く取り組もうとする児童の姿がみられるようになってきた。
- ・友達の製作活動を参考にしたり、自分のひらめきについて、グループの子と対話したりすることで、表現の見方や感じ方を広げようとしている様子が見られるようになってきた。

## 教師の願い

- ・自分の思い付いたことを大切に、手や体を十分に動かし、接着や接合の仕方を確認しながら自分の表現に自信をもって、工夫して表現することを楽しんでほしい。
- ・自分の思い描いているイメージを表現するために、材料の質感や、形や色に注目して試行錯誤を重ねていく体験を通して、粘り強く造形活動に取り組む姿勢に繋げていきたい。
- ・友達と製作活動を見合いながら、互いの表現のよさや面白さを認め合い、表現する喜びを味わうことで、造形的な創造活動に対しても物怖じせず楽しんでほしい。

## 題材名

# 荏田のひみつきち

～自然の宝物・地域の宝物・わたしの宝物をつないで、荏田小校内にとっておきのひみつきちをつくらう～

## 題材目標

- 集めてきた木材を並べたり、組み合わせたりする行為を通して、木の形や色味、質感などの感じ方が分かるとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて用具を適切に使いながら、切ったり接着したりして工夫してつくるようにする。
- ひみつきちという言葉や自然木や材料などの形や色の感じを基に、自分のイメージをもちながら、想像したことから自分の表したいことを見付け、そのひみつきちでやりたいことなどを思い浮かべ、自然木の形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えるようにするとともに、自分たちや友達の作品の造形的なよさや面白さや、表したいことに合わせたいろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。
- ひみつきちを自然木や集めてきた材料を使って表す学習活動に進んで取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにする。

## 題材について

本題材では、地域の木工所から頂いた廃材と出あい、教師のひみつきちを探す活動から、自分たちなら校内のどんな場所で、どんなことを自分のひみつきちでしたいかを想像して、自然材や身近材を組み合わせ立体に表す活動である。

本題材で使用する材料は、荏田の地域の木工工場から頂いたものである。子どもたちは日常生活の中で、公園の自然のものに触れたり、思いっきり遊んだりする機会が少なくなっている。今回の材料との出あいのきっかけにより、自然材に触れることで自然に目を向けたり、自分たちが住んでいる地域にさらに関心をもったりするきっかけとなればと思う。

本校の4年生の児童は、初めて使う用具の使い方や材料の感じからどんなことが表現できるのか、動画で確認して一人ひとりが少しでも安心して造形活動に取り組めるようにしてきた。表したいことが思いつかない児童に対しては、どんなイメージを持っているのか形・色について教師と対話を重ねながら、学習を進めてきた。

友達の表現のよさや面白さは素直に伝えることができるものの、自分自身の表現については、自信のなさからマイナスな言葉を口に出す児童がいる。本校では教育課程全体で育成を目指す資質・能力として、「自分づくりに関する力」を挙げているが、そういった姿はあまり見られない。

また、本題材は、木や枝の形や色を生かし、それらを組み合わせて立体に表す活動である。そのため、形や色の感じ、質感などを基に、組み合わせを試行錯誤して自分の納得いくひみつきちにつくり上げていく経験を通して、その面白さをじっくり味わってほしい。

そして、今後の造形活動に対しても粘り強く、試行錯誤を重ねていく姿につなげたい。そういった姿が自分の思いを大切にしつつ、周囲の友達と考え方や感じ方の違いを味わいつつ生活していける入り口になると感じている。「廃材を頂いた木工所は、この自然材をつかってどんなものをつくっていて、どんな思いでものづくりをしているのか。」「社会科や総合などに関連させていける本校の地域の材の入り口となるのか。」そういった視点でも今後の荏田小学校の教育課程上の貴重な地域の材としての価値も見出していけたらと思う。

#### ○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

地域の方から頂いた木工所の廃材と出あい、自分のひみつきちをどんな場所でどんなことをするのかを想像する活動を通して、子どもたちが集めた廃材や自然材の組み合わせを考え自分なりのイメージを広げ、楽しみながら立体に表す活動にした。接着や接合の方法として、木工用接着剤やホットメルト接着剤による接着やひもなどをつかった接合を考えている。実際に校内のどの場所にひみつきちをおくかを考えたり、友達と話をしたり、友達の製作活動を見たりして、自分の見方・考え方を広げ、工夫して表現していけるようにする。

#### ○本題材における〔共通事項〕の捉え

- |                                |
|--------------------------------|
| ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。 |
| イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。    |

自然材を並べたり組み合わせたりして、ひみつきちをつくる活動を通して、自然材の形や色などの感じや質感が分かり、自分のイメージをもつ。

#### 4. テーマに迫るために

研究主題	感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造 ～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～
部会テーマ	工夫して つくることを楽しむ子どもの姿を目指して

#### ○出あいの工夫

##### 〔表現主題を追究するために〕

ひみつきちという言葉だけでもわくわくするとは思いますが、ひみつきち探しから始めることで児童の意欲をさらに高めたい。あらかじめ、校内に教師のひみつきちを隠し、ひみつきち発見地図をもって一緒に探しに行く。「どんなところにあったらいいかな。」「わたしならこんなところにつくりたい。」という思いを巡らせることにつながると考える。

##### 〔材料に愛着をもつために〕

「とんとんつないで」では、教師があらかじめのこぎりで切りやすい角材をあらかじめ用意した。今回は、地域の木工所からいただいた廃材を見せ、「とんとんつないで」で触った木の質感や色味、においなどの違いを味わい、自分の住んでいる地域からもらった材料に愛着を持って活動に取り組めるようにする。また、教師がひみつきちで「どんなことをしたいか」その場所から想像したことや材料の形や質感から思い付いたことなどについて、参考作品を見せながら伝え、材料の特徴にも注目しながら児童が興味をもって取り組めるようにしたい。

#### ○場の設定の工夫

- ・豊富な材料をすぐ手に取れるように用意しておく。
- ・つくりつつあるものを見合う時間を設定し、グループの中で、協力して互いのつくりつつあるものを見合ったり助言をしたりして、対話を重ねながら工夫を考えたりすることができるようにする。
- ・枝や木材を切って加工したい児童のために、「切る活動」ができる場所を用意する。

#### ○共感的支援の工夫

- ・自分がひみつきちでやりたいことなどのイメージをいつでも振り返ることが出来るように、タブレット端末でひみつ

きちをつくりたい場所の写真を撮っておく。

- ・材料の接着接合の仕方については、ロイロノートで資料を共有したり図工室内に資料を掲示したりする。
- ・ひみつきちを置きたい場所から想像を広げる子もいれば、材料の形から想像を広げる子もいる。それぞれの発想の仕方を認め、つくりつつある中で、初めに想定していたことが変わってもよいことを伝える。

### ○小中一貫の視点

地域から集まった材料を使ってつくることを通して、高学年や中学校での造形活動でも生かすことができると考える。また、地域とつながった今回の経験を生かして、自分がこれからも生活するこのまちのことに関心をもつきっかけとなり、教科横断的な学習にも期待できる。

また、今回は自然材と自分のイメージに合う身近材を組み合わせて、自分の思いを表現する経験から、ただの木目が波のように見えるなど、見方は一つではなく、他の見方・考え方を広げていくことにつながるのではないかと考える。

## 5. 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めてきた木材を並べたり、組み合わせたりする行為を通して、元々の木の形や色味、質感などの感じが分かっている。</li> <li>・のこぎり、金づち、釘、木の材料を適切に扱うと共に、木工用接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひみつきちという言葉や自然木や材料などの形や色の感じを基に、自分のイメージをもちながら、想像したことから自分の表したいことを見付け、そのひみつきちでやりたいことなどを思い浮かべ、自然木の形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えている。</li> <li>・自分たちや友達の作品の造形的なよさや面白さや、表したいことに合わせたいろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わり、進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

## 6. 指導と評価の計画 6時間（本時 4/6）

- ア 校内のどこにひみつきちをつくるか、ひみつきちでやりたいことを想像する。（1時間）
- イ 自然木や枝、自分で集めた材料を基に、表したいことに合わせて、工夫してひみつきちをつくる。（4時間）
- ウ グループで交流し、さらに工夫できることを考えながらひみつきちをつくる。（1時間）
- エ 友達と校内に置いたひみつきちを探しに行き、互いの作品のよさや面白さを味わう。（1時間）

子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知技	思・判・表	主体的
<p>ア 荏田小学校の中のどこにひみつきちをつくる？ この材料からどんなひみつきちができそう？ 想像してみよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のひみつきちを探しに行き、学習内容の見通しをもつ。</li> <li>・材料と出あう。</li> <li>・校内のどこにひみつきちをつくりたいか、また、出あった材料の形などを生かして、どんなことができそうか想像を広げる。</li> </ul>	<p><b>【思・判・表】</b> ひみつきちという言葉や自然木や材料などの形や色の感じを基に、自分のイメージをもちながら、想像したことから自分の表したいことを見付けている。 【ロイロノート・観察】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容が見通せるような題材との出あい方を工夫する。</li> <li>・次時の活動で、発想の手立てとして振り返ることができるように、想定した場所を写真に撮ったり、場所や材料の形などから想像したことをロイロノート上にメモしたりして記録しておく。</li> <li>・次時の活動で、自分のイメージに合う身近材なども探しておくように声をかける。</li> </ul>	↓	↓	↓

2 3 4 本 時	イ 自然の宝物、地域の宝物、自分で集めてきた材料を表したいことに合わせて工夫してつくろう!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の活動を想起しながら内容を確認する。</li> <li>・ひみつきちの場所やそこでやりたいことを想像し、自然の宝物、地域の宝物、私の宝物を組み合わせ、表現方法を試しながら立体に表す。</li> <li>・接着や接合の仕方や用具の扱いに方に困った際には、ロイロノートや掲示物を確認してつくる。</li> <li>・本時を振り返り、感想を伝え合う。</li> <li>・次回の見通しをもつ。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b> 集めてきた材料を並べたり、組み合わせたりする行為を通して、元々の木の形や色味、質感などの感じがわかり、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくっている。 【活動の様子・つくりつつあるもの】</p> <p><b>【思・判・表】</b> ひみつきちでやりたいことなどを思い浮かべ、自然木の形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えている。 【つくりつつあるもの・対話】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の使い方を掲示したり、つくりつつあるものをロイロノートで記録したりして視覚的に振り返ることができるようにする。</li> <li>・一人ひとりの思いや声に耳を傾け、ひらめきや試行錯誤している姿などに共感し、前向きにつくり続けることができるような声かけや支援を行う。</li> <li>・発想が広がらない子には、前時で残した記録を見ながら、教師や友達と対話し、どんな材料や形を選択したらいいかを一緒に考えていけるようにする。</li> <li>・楽しく活動し、自分の表現に自信がもてるよう具体的な言葉かけで励まして、支援していく。</li> </ul>	
	ウ 自分の表したいものに近づけるためにどうしたらいいか、グループで交流しながら、より工夫できるところを探して、つくろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友達に悩んでいることや表したものについて話し、互いにいいところや、アドバイスをもらいより表したいことに近づくようにつくる。</li> </ul>	<p><b>【主体的】</b> 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。 【活動の様子・対話】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫に必要な材料や用具を用意したことを伝える。</li> </ul>	
	エ ひみつきち紹介地図から友達の商品を見て、もっと詳しく見てみたいと思うひみつきちを見に行き、友達の工夫のよさを見付けよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージした内容をカードにまとめて、想定していた場所にひみつきちと一緒に置く。</li> <li>・ひみつきち紹介地図から友達の作品を見て、そのひみつきちの工夫などもっと詳しく見たいと思う作品を選んで鑑賞し、鑑賞カードに記録する。</li> </ul>	<p><b>【思・判・表】</b> 自分たちの作品や友達の作品を鑑賞する活動を通して、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。 【鑑賞カード】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひみつきちを発見することがめあてではなく、友達がその場所にした理由やそこでしたいことをまとめたカードを参考に、どのように工夫したのかを材料の組み合わせや、形や色の感じから考えるよう声かけをする。</li> </ul>	

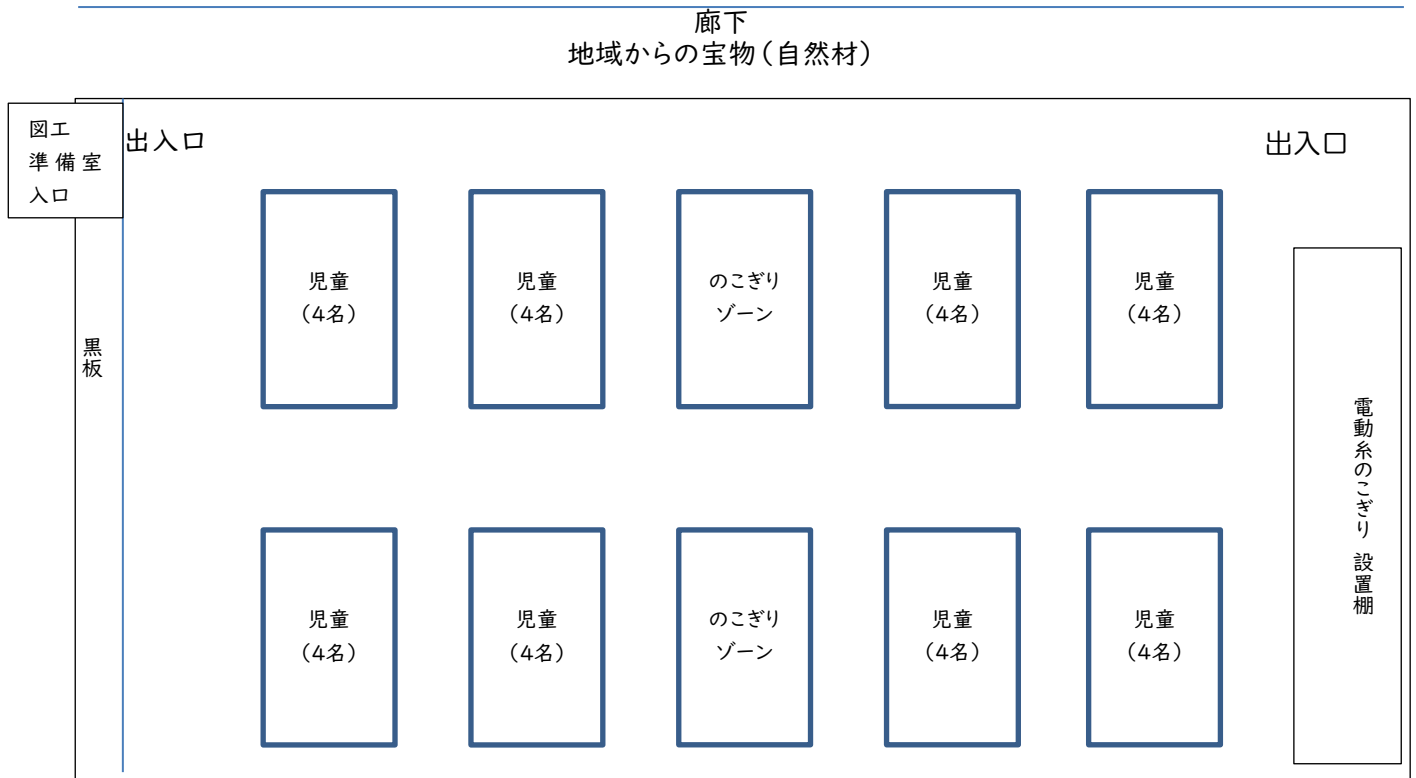
## 7. 準備

児童： 自分が集めた自然材料等 木工用接着剤 はさみ 工具箱 タブレット端末

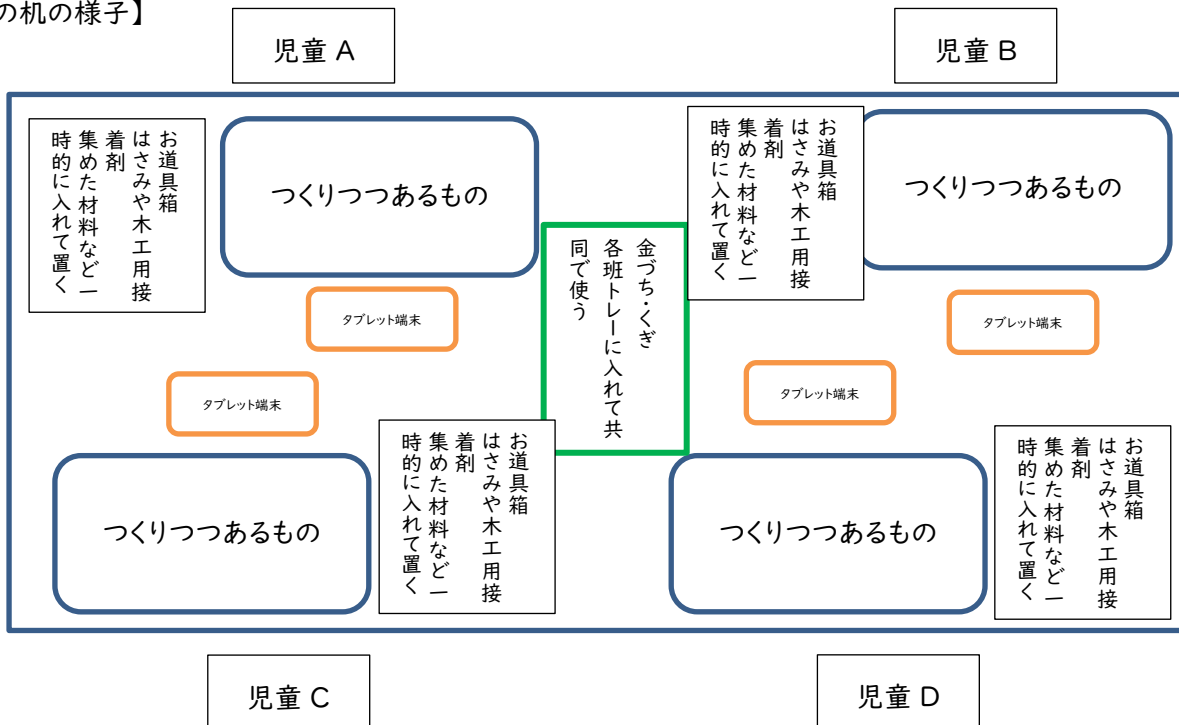
教師： 地域から頂いた自然材 小さなのこぎり 万力 かなづち 釘 釘打ち補助用の角材 麻ひも 紙ひも 布の端切れ 児童の分身写真人形 イメージを広げるためのワークシート

## 8. 場の設定

### 図工室



### 【個人の机の様子】



9. 本時の計画(4/6時)

本時目標

ひみつきちを置きたい場所からその場所でどんなことをしたいのか想像したり、材料の形や色から自分のひみつきちにどんなものを置きたいのかを考えたりしながら、表したいことに合わせて、材料を選び工夫して表すようにする。

展開

子どもの学習活動	具体的評価規準と評価方法	教師の指導
<p>とっておきのひみつきちに近づくように、宝物を組み合わせて工夫してつくろう。</p>		
<p>○本時の見通しをもつ。 自分なりのイメージに合わせて、材料をどのように組み合わせて表していくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひみつきちを置きたい場所</li> <li>・ひみつきちでしたいこと</li> <li>・材料の形から思い付いたこと等</li> </ul> <p>○地域から頂いた材料や集めてきた材料を組み合わせて、木工用接着剤やくぎなどを使って工夫して表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表したい材料に合わせて材料を選ぶ。</li> <li>・表したいイメージに合わせて材料を切ったり、接着接合したりする。</li> </ul> <p>○本時を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動の感想を伝え合う。</li> <li>・次回の見通しをもつ。</li> </ul>	<p><b>知・技</b> 集めてきた材料を並べたり、組み合わせたりする行為を通して、元々の形や色味、質感などの感じが分かり、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫してつくっている。 【活動の様子・つくりつつあるもの】</p> <p><b>思・判・表</b> ひみつきちでやりたいことなどを思い浮かべ、自然木の形や色、材料などを生かしながらどのように表すかについて考えている。 【つくりつつあるもの・対話】</p>	<p>○ひみつきちを置きたい場所やそこでどんなことをしたいか、材料のかたちから思い付いたことなど、自分がイメージしたことが思い出せるように、ロイロノートにメモをして、いつでも確認できるようにする。</p> <p>○表したいことに合わせて、材料を組み合わせたり、安全に気を付けながら、材料を切ったりしていいことを伝える。</p> <p>○接合の仕方や用具の使い方について、いつでも見返すことができるように、視覚的に掲示したり、ロイロノート上で確認したりできるようにする。</p> <p>○イメージがなかなか広がらない児童には、ロイロノートのメモと一緒に振り返ったり、材料を選んだり並べたりしながら、具体的なイメージがもてるようにする。</p> <p>○振り返りとして感想を聞き、全体に共有して次時につなげる。</p>